

北海道浮魚ニュース

令和 7(2025)年度 13 号

2025 年 9 月 30 日

道総研 釧路水産試験場

【URL】 https://www.hro.or.jp/fisheries/research/kushiro/topics/ukiuo_news.html

◎道東太平洋 9 月浮魚類分布調査結果

魚探調査では沿岸側の反応量が大きかった
マイワシ・サバ類は 13cm 台の小型魚が主体
カタクチは 9cm 台と 12cm 台が主体
サンマは 28cm～32cm 台が主体

試験調査船北辰丸(釧路水産試験場所属)によって行われた 9 月浮魚類分布調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間：2025 年 9 月 2～12 日
- ・ 調査方法：流し網を用いた漁獲調査（原則 17 時投網，翌 5 時揚網）
計量魚群探知機による魚探反応の計測
CTD, XCTD による海洋観測
NEAR-GOOS*表面水温（9 月上旬）の解析
※NEAR-GOOS 地域リアルタイムデータベース
http://ds.data.jma.go.jp/gmd/goos/data/rtrtdb/data_usage_J.html
- ・ 調査海域：道東太平洋海域

1. 水温分布

2025 年 9 月の道東太平洋海域では、根室～釧路地方の沖合に親潮が張り出しており、直近 4 年の同時期としては低い表面水温になりました（図 1）。流し網調査点における表面水温は 18.1～21.1℃でした（表 1）。

2. 計量魚探調査

平均魚探反応量 (m^2/nmi^2) は 268 で、2024 年、2023 年および 2022 年調査時の平均魚探反応量（137, 223 および 416）と同程度でした（図 1）。

本年は例年の魚探航走ラインに加え、厚岸から根室にかけての沿岸域で魚探航走を実施しました。これらの海域を含む十勝から根室にかけての沿岸域は、まき網や棒受網といった浮魚類を対象とする漁業の漁場になっています。

海域別の魚探反応量を比較すると、浮魚類の漁場となっている十勝から根室にかけての沿岸域では反応量が大きく、沖合側での反応量は小さい傾向がありました。

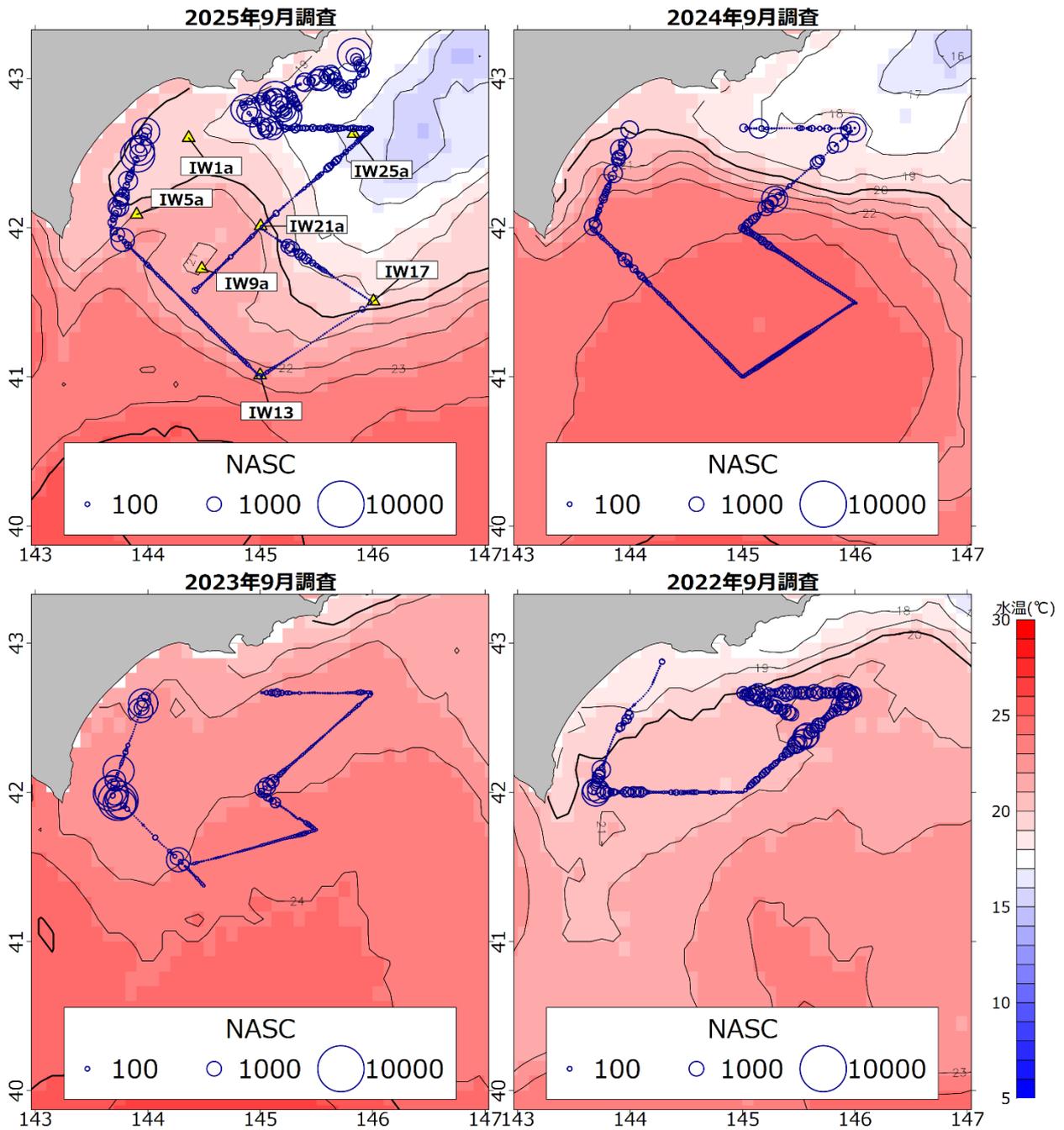


図1 計量魚群探知機の魚探反応量と表面水温および2025年9月調査における漁獲調査点（左上図：2025年9月調査，右上図：2024年9月調査，左下図：2023年9月調査，右下図：2022年9月調査）

（表面水温：NEAR-GOOS 表面水温旬平均値，NASC：1平方マイルあたりの魚探反応量）

3. 流し網調査

調査期間中，流し網による漁獲調査を7点で実施し，サバ類が2,644.5尾，マイワシが186.3尾，カタクチイワシが1,915.0尾，サンマが2,814.3尾漁獲されました（表1，図2）。サバ類，マイワシおよびカタクチイワシはIW1a，サンマはIW25aで最も多く漁獲されました。

漁獲されたサバ類は前年と同様に尾叉長13cm台が主体でしたが，20cm以上の比較

的大型の個体もみられました(図3)。カタクチイワシの体長組成は体長9cm台と12cm台をそれぞれ中心とした二峰形で、前年と比べて12cm台の占める割合が大きくなりました。マイワシは体長13cm台が漁獲の主体でしたが、まき網漁業等で漁獲対象となるような17cm台体長の個体も漁獲されました。サンマの体長は16~34cm台でした。

1 操業あたりの平均漁獲尾数はサバ類が378尾、マイワシが27尾、カタクチイワシが274尾、サンマが402尾でした(図4)。2024年調査の平均漁獲尾数と比べて、サバ類は増加、カタクチイワシは同程度、マイワシは減少しました。

表1 流し網調査点の位置、投網日、水温および魚種別漁獲尾数

調査点 番号	投網日	漁獲位置		水温(°C)			CPUE(1操業あたり漁獲尾数)			
		北緯	東経	0m	50m	100m	サバ類	マイワシ	カタクチ	サンマ
IW 5a	9/2	42-05	143-54	18.5	9.6	7.1	865.0	0.0	253.5	5.5
IW 13	9/3	41-01	145-00	22.1	6.6	6.0	0.0	0.0	0.0	22.0
IW 17	9/4	41-30	146-01	18.8	3.4	2.6	193.3	51.5	294.0	8.0
IW 9a	9/5	41-44	144-29	21.2	8.5	8.4	15.8	0.0	1.0	47.0
IW 1a	9/8	42-36	144-22	19.0	13.3	5.3	1,237.0	86.5	1,202.5	57.0
IW 21a	9/9	42-01	145-00	21.8	8.1	6.0	333.5	26.8	126.0	8.0
IW 25a	9/10	42-38	145-50	18.1	4.4	3.1	0.0	21.5	38.0	2,666.8

※漁獲尾数は2019年以前の反数に換算した値

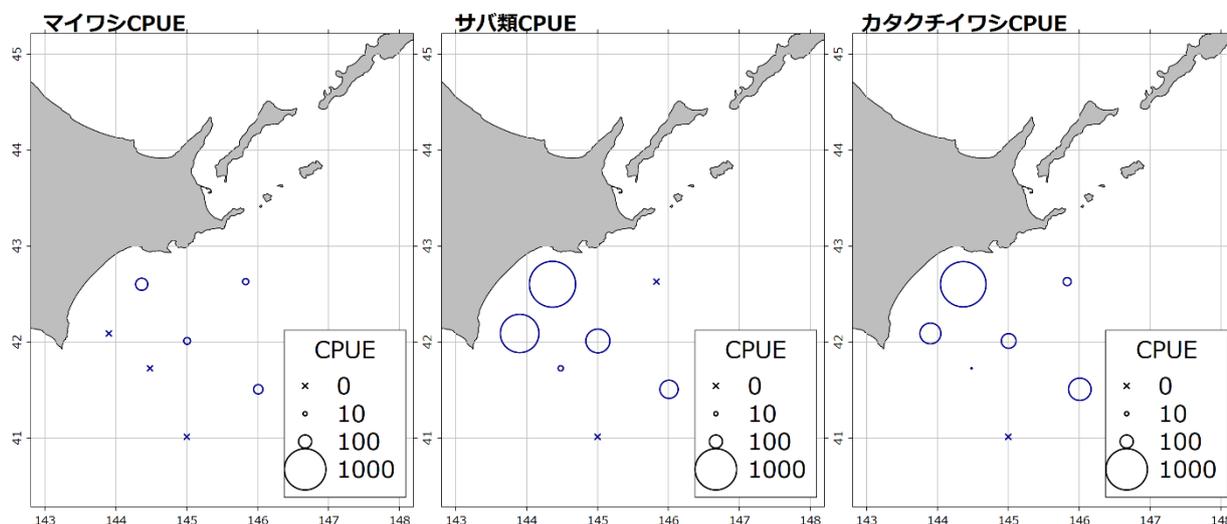


図2 各魚種の調査点別 CPUE

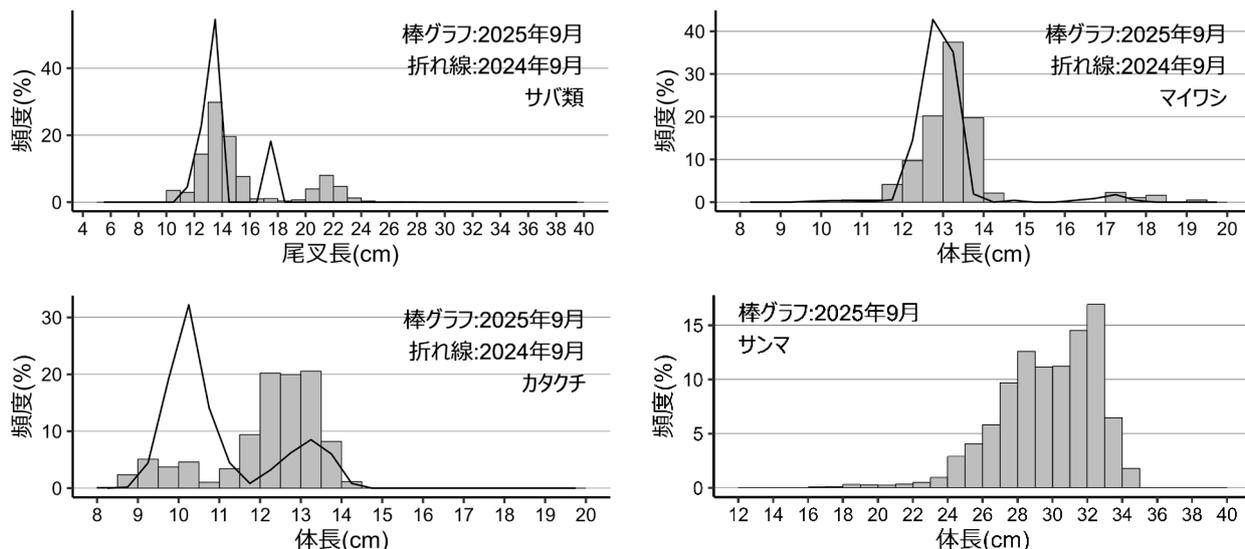


図3 2025年および2024年9月調査で漁獲された浮魚類の体長および尾叉長組成
 (左上：サバ類，右上：マイワシ，左下：カタクチイワシ，右下：サンマ)
 ※サンマは2025年の体長組成だけを図示)

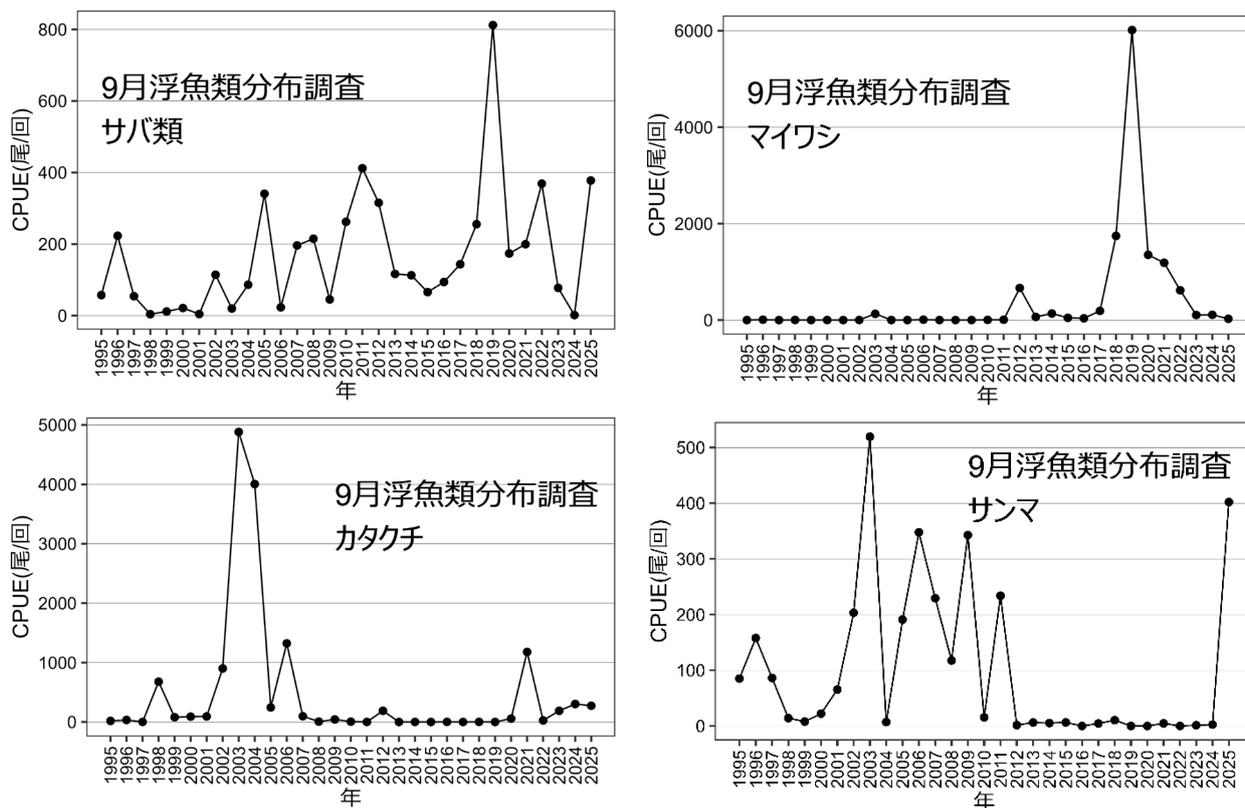


図4 9月調査による平均CPUEの推移 (CPUE：1操業あたり漁獲尾数)

4. 全周ソナーによる魚群体積の測定

全周ソナー (SX90, Simrad 社製) の音響データから、魚群の体積を算出しました。調査全体を通して 633 個の魚群が検出され、計量魚探の反応量が比較的大きい沿岸側で多くの魚群がみられる傾向がありました。

魚群の大きさに着目すると、十勝から根室の沿岸域では体積が 10,000 m³ 以上の魚群がみられました。特に、厚岸や広尾～庶野の沿岸では、100,000 m³ を超えるような

大きな魚群も多くみられました。一方で、計量魚探の反応量が小さかった沖合の海域では、小さな魚群がみられました。

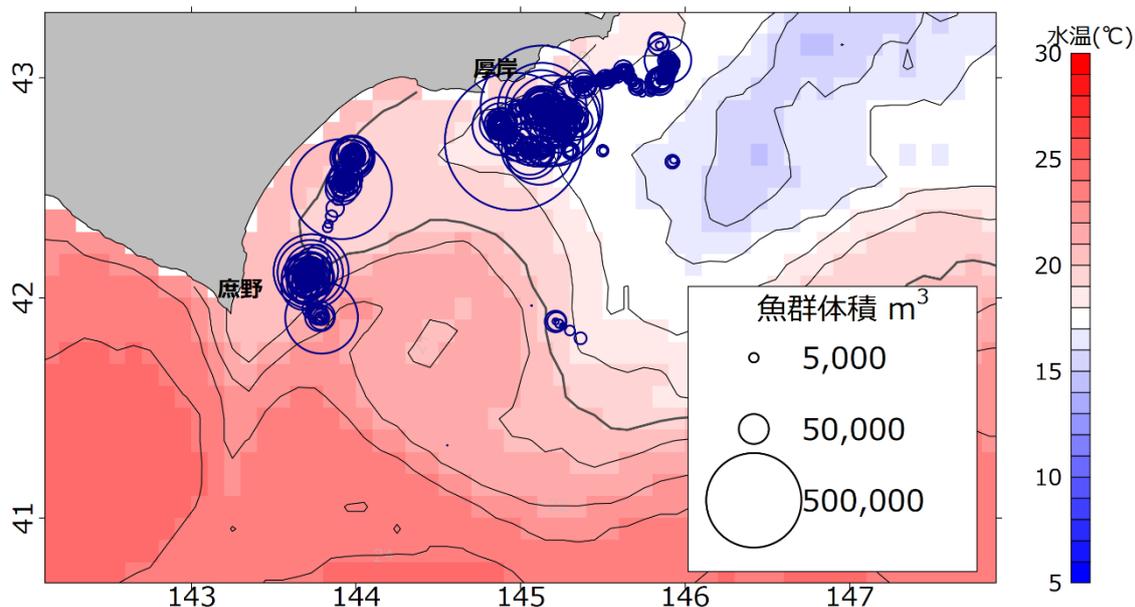


図5 2025年の9月調査における全周ソナーで観測された魚群の体積と表面水温
(表面水温：NEAR-G00S 表面水温旬平均値)

SX90 およびデータ解析の設定

周波数：26kHz, FM波

範囲：船の周囲半径20m～440m(水深換算6m～42m)

流し網調査の詳細：9種類の目合の流し網を用いた漁獲試験(付表)。原則17時投網、翌5時揚網。調査時の各目合の反数は付表のとおり。過去の調査結果との比較のためCPUE(1操業あたり漁獲尾数)は2019年度以前の反数(182mmを除く)に換算した値を用いました。

付表 9月浮魚調査における流し網の目合別反数

目合 mm	22	25	29	37	48	55	63	72	82	182
2024年～	2	2	2	2	2	2	2	4	4	0
2020～2023年	2	2	4	2	2	2	2	4	4	0
～2019年	1	1	4	4	2	1	1	1	2	12

※本調査は水産資源調査・評価推進委託事業により実施しました。

北辰丸 海洋観測速報(試験運用中) <https://hro-fish.net/hokushin/>
(釧路水産試験場試験調査船北辰丸の海洋観測結果がご覧になれます。)

お問い合わせ先：釧路水産試験場調査研究部、[TEL:0154-23-6222](tel:0154-23-6222)
[FAX:0154-23-6225](tel:0154-23-6225)